

麒麟獅子を中核とした日本遺産認定申請について

1. 日本遺産認定申請に向けた取組経過

(1) 文化庁との協議

●実施日：第1回／9月6日（火） 第2回／10月13日（木） 計2回

●協議概要（文化庁意見抜粋）

第1回（9/6）

- ・日本遺産はストーリー重視。現在の人がそこに行きたいと思えるような面的魅力を伝えてほしい。
- ・無形文化財を中核とした認定は少ない。麒麟獅子はいつ行っても見えるという通年素材ではない点が大きな課題。
- ・麒麟や霊獣と自然地形がセットになったストーリー展開は面白い。
- ・訪れる人々の五感にいかにか訴えられるか、ストーリーのわかりやすさが重要。

第2回（10/13）

- ・素材がバラバラに並び、アラカルト的な説明に見える。ストーリー感がない。
- ・「〇〇が魅力的な地域」といった形で簡潔に表現でき、そこを訪れる方が何を感ずることができるかが伝わるストーリーであること。
- ・この地域のイメージは鳥取砂丘や砂。なぜ鳥取砂丘がタイトルやストーリーの概要に入っていないのか逆に違和感がある。
- ・景色や自然地形をストーリーの背景に据え、人々の暮らし等を人間臭く語る。今の人の行き・暮らしの魅力（見えるもの）と過去の人の行き・暮らしの魅力をどう地形でつなげるかがポイント。その上で、地形的背景の中に麒麟獅子をどう絡められるかだと思う。

(2) 文化庁への意思表示

●実施日：平成28年10月26日（水）

●参加者：鳥取市長、八頭町長、岩美町副町長、智頭町副町長、香美町副町長、新温泉町副町長、若桜町ふるさと創生課長

●協議概要（文化庁意見抜粋）

- ・麒麟獅子舞は見るという点では時期的にも限りがあるので、それ以外の地域の魅力と結びつけて上手くストーリーを考えてほしい。
- ・大胆にインパクトのある方向でストーリーを考えてほしい。正確性というよりアピール性をもってやってほしい。

(3) その他ストーリー作成に係る取組の経過

●1市6町文化財担当者会議（8/16、10/5 計2回）

●鳥取因幡・北但西部観光ランドデザイン策定委員会（8/5、10/24 計2回）

2. 今後の取組内容とスケジュール

●今後の取組内容

- ・日本遺産認定申請に向けたストーリー等の検討・作成
- ・獅子舞団体の組織化（鳥取県と連携）
- ・麒麟獅子 PR チラシ・パネル等の作成・掲出による機運の醸成
- ・因幡の麒麟獅子舞調査（鳥取県実施）に対する協力・支援
 ※平成21年3月、「国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されたことを受け、専門家による詳細調査を実施中（調査期間 H26-H29）

●今後のスケジュール（予定）

日程	内容	内容詳細
28年11月～	獅子舞団体組織化に係る発起人会開催	獅子舞団体の設立に向けた発起人会の開催
～29年2月	日本遺産ストーリー等の調査・研究、検討	1市6町の歴史的背景や自然、地域に受け継がれている伝承、風習等を踏まえ、申請に向けた調査・研究を行う。 ・ストーリー作成に係る調査・研究 ・ストーリーと活性化計画の検討・作成 ・文化庁の指導助言
29年2月	文化庁へ日本遺産認定申請	
29年3月	獅子舞団体設立	
29年4月	認定結果公表	日本遺産審査委員会